

キーワード①: 関西一体となった魅力発信



【主な生声(=ニーズ)】

- 関西を代表する機関からの一元化された情報発信が必要。(総領事館)
- 各地域独自の情報発信も良いが、イベント等については、関西が一体となって情報発信してほしい。(外国人社員)

【主な先進事例】

- 関西経済連合会は、「関西」を国際的なブランドとして打ち出すため、国の出先機関に、「関西」を冠する名称に変更することを要望している。
- 近畿商工会議所連合会は、名称の「近畿」を「関西」に変更する方向で検討する意向を平成26年末に表明。平成27年の総会での議決を目指して調整予定。
- 関西広域連合や関西地域振興財団では、関西の観光関連情報を発信するウェブサイトを運営している。

関西広域連合: 関西観光web-Welcome to Kansai-
関西地域振興財団: 関西情報サイト-Kansai Window-
(いずれも、日・英・中・韓の4ヶ国語)

【エピソード】

- 「関空(関西国際空港)」という名称は知られているが、「関西」というエリア名は知られていない。一方で、「近畿」というエリア名もあり、理解できない。(総領事館)
- 関西には、関西広域連合や関西経済連合会等、様々な団体があるが、どこを情報源とすれば良いのか、誰が関西の代表なのかよくわからない。(総領事館)

キーワード②: 無料Wi-Fi



【主な生声(=ニーズ)】

- 無料Wi-Fiスポットを増やしてほしい。(留学生)
- 無料Wi-Fiスポットを探すのが難しいうえに、簡単にアクセスできない。(領事館)
- 電車やバスでの移動中に使えないので改善が必要。(旅行業者)
- 無料Wi-Fiやインターネットサービスに接続できるスポット情報を提供すべき。(海外の大学生)

【主な先進事例】

- 大阪観光局が運営する観光情報ウェブサイト「OSAKA ENJOY RALLY」では、府内の無料Wi-Fiスポット(Osaka Free Wi-Fi / Osaka Free Wi-Fi Lite)を検索でき、接続者は加盟店から特典・サービスが受けられる。
5言語(日本語、英語、韓国語、中国語、タイ語)対応。
- 関西国際空港では、全館で無料Wi-Fiに接続可能。
- 阪急・阪神電鉄は全駅に無料Wi-Fiを設置。その他、阪急三番街やHEPファイブ等の関連施設でも利用可能。
- 奈良県中部の4つの寺院(長谷寺、室生寺等)が独自に連携して、外国人観光客への対応の一環として、無料のWi-Fiを設置。

【エピソード】

- 早急に自国の職場に連絡をとる必要があった際、無料Wi-Fiスポットを探すのに苦労した。やっとの思いでWi-Fiが使えるカフェを見つけたが、自分のノートパソコンでは日本語入力できず、アクセスできなかった。迷子になった末、やっとレストランを見つけたが、Wi-Fi接続のために料理を注文するはめに。(海外の大学教員)
- より多くのホテルや公共の場所でWi-Fiへの接続が可能となっているにもかかわらず、事前の登録が必要となっているのは不便。ロビーでしかWi-Fiに接続できないホテルもある。(海外の大学教員)

キーワード③: 外国語対応の医療機関



【主な生声(=ニーズ)】

- 公立病院には通訳サービスがあるが、民間病院には少ない。(国際交流団体)
- 日常会話は可能だが、病気の際に病状を十分に伝えられているか不安。(留学生)
- 一般的な通訳では、病院の受付、問診票程度しか対応できない。(国際交流団体)
- 病院が写真入りのバイリンガルマニュアルを整備してくれると助かる。(海外の大学生)
- 病院のシステムや予約制度はわかりにくい。(留学生)

【主な先進事例】

- 京都市、大阪府、神戸市には、病院への医療通訳者派遣制度あり(全額病院側負担のケースもあり)
- 大阪府は、ウェブサイト上で、「より良い外国人医療のためのリンク集」を提供
- (独)りんくう総合医療センターは、「国際診療科」を設置
当病院で認定を受けた医療通訳者又は認定外国人サポーター約60名のボランティア通訳者を登録。
英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語で対応
- 京都市・神戸市消防局、田辺市/白浜町消防本部では5カ国語で24時間対応の119番通報制度を採用

【エピソード】

- 病院に行った時、自分の病状が日本語で伝えられず困った。(留学生)
- 外国人旅行客が言語等の関係で、病院に行くことをためらうケースが多い。それが原因で、旅行中に骨折した人が、病院に行かず、旅行日程を繰り上げて帰国したケースもある。(旅行業者)
- 病院では診察の時間が決まっており、閉院時間間際に行ったところ、受け付けてくれなくて困った。違う病院に行くのもあきらめて翌日まで我慢したが、もっと重い病気だったらどうなっていたらと心配になった。(留学生)

キーワード④: 外貨交換・クレジットカード



【主な生声(=ニーズ)】

- 市中において外貨両替ができるところが少なく不便。(留学生)
- 小規模店舗ではクレジットカードが使えないことが多い。(外資系企業)
- 海外のクレジットカードで現金を引き出せるところが少ない。(駐日海外経済機関)

【主な先進事例】

- 兵庫県の外国語版中播磨地域周遊パンフレット「AROUND HIMEJI GUIDEBOOK」には、市街図に外貨両替可能な銀行や海外キャッシュカードが利用できるATM等を掲載。(英・中・韓の3カ国語対応)
- セブン銀行及びゆうちょ銀行のATMでは、海外で発行されたクレジットカードでの現金の引き出しが可能。
- メガバンク3行(みずほ銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行)等においても、海外発行クレジットカードでの現金引き出しに対応するATM設置に2015年度以降順次取り組むことを決定。
- Square(株)は、無料配布のカードリーダーとiPad・iPhone用の無料レジ機能アプリで初期費用不要のクレジットカード決済サービスを提供。
(2項目以下は全国的な取り組み)

【エピソード】

- 外貨両替の場所が少ない。せっかく本国からお金を持ってきたのに、遠方まで行って両替しなければいけないので、急にお金がある時に困ったことがある。(留学生)
- 外国人をホームステイさせたことがあるが、街を案内している時に、カードで現金を引き出せる場所が無くて困った。ずいぶん探してようやくセブンイレブンで引き出すことができた。(駐日海外経済機関)

キーワード⑤:防災情報(避難場所)



【主な生声(=ニーズ)】

- 災害時の対応に不安がある。病院、避難所などが記載された近隣地図があれば便利(留学生)
- (自国では地震がないので、)東日本大震災の際はパニックになった。(留学生)
- 災害時の対応に不安を持つ人が多い。(国際交流団体)

【主な先進事例】

- (公財)神戸国際協力交流センターでは、多言語で「防災カード」を作成し、区役所での外国人登録等の際に配布。
6言語(英語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ベトナム語)対応。平成27年3月の改訂版には、QRコードを記載し、スマートフォン等を使ってより詳細な情報を入手しやすくしている。
- 大阪府は、「大阪防災ネット」(ウェブサイト)で防災情報を提供するとともに、防災情報メールに登録した外国人に対して災害情報等を配信。
3言語:英語、韓国・朝鮮語、中国語
- (公財)大阪府国際交流財団では、災害時通訳・翻訳ボランティア研修や「外国人のための防災ガイド～地震に備えて～」作成を実施。
8言語(英語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ベトナム語、タイ語、フィリピン語)

【エピソード】

- 留学をしていた2011年の東日本大震災の時は、大阪には被害が無かったものの、もしそれが西日本で起こったとしたら、防災について何も知らなかったのもので、避難もできなかったと思う。今は自分で情報を探しているが、関西に来たばかりの留学生や外国人の滞在者のための防災情報提供や教育は必要だと思う。(外国人社員)
- 地震の時に、情報が入らなかった。そのときに誤った情報が口コミで広がり、それを信じた外国人がパニックになった。(留学生)

キーワード⑥: イスラム対応(ハラフード・礼拝)



【主な生声(=ニーズ)】

- スーパーにハラフードを導入(または、増量)してほしい。(留学生)
- 食事が一番の悩みとなっている。食品にハラ対応の表示をしてほしい。(留学生)

【主な先進事例】

- 関西広域連合の運営する「関西観光web」中の、“ムスリムフレンドリー関西”というコーナーには、ムスリムの方に関西での観光を楽しんでもらうための各種情報を掲載。
ムスリム対応施設(宿泊、祈祷、食事)
各府県におけるムスリムの方向け情報源(ウェブサイト、ガイドブック)の紹介など
- 関西国際空港では、24時間利用可能な祈祷室の設置の他、ハラ認証レストランやポーク及びアルコールフリーメニュー設定をしている飲食店等も整備。
- 大阪商工会議所では、「ムスリム観光客 接遇基礎知識集」を発行し、小売店、飲食店等に配布。
- 和食の「だし」への関心の海外での高まりを受け、かつお節を製造・販売する福島鯉(京都市)の京都南丹工場がハラ認証を取得。

【エピソード】

- 宗教上の理由で外食が出来ず、日本に来てからは家でしか食事をしたことがない。(留学生)

キーワード⑦:住居(敷金・礼金制度、保証人)



【主な生声(=ニーズ)】

- 保証人、敷金、礼金といった日本特有の慣習は外国人にとって理解しがたい。(留学生)
- 保証会社があるが、保証金が高い。また、敷金、礼金も高く、部屋を借りるのに大金が必要。(留学生)
- 家具付き住宅が少ない。敷金や礼金等の賃貸の初期費用に加えて、家具の購入も大きな出費となる。(留学生)

【主な先進事例】

- (公財)京都市国際交流協会は、外国人向け住宅物件検索サイト「HOUSE Navi」を、日本賃貸住宅管理協会京都府支部と共同で運営している。
- 大阪大学サポートオフィスのハウジングチームは、留学生や外国人研究者向けに、住宅情報の集約、案内等を行い、日本滞在中の部屋探しを支援。
- (公財)大阪府国際交流財団の外国人情報コーナーでは、多言語(9言語)により、住居を含む生活関連の情報を提供したり、相談に応じている。

【エピソード】

- 新しいアパートを借りるのは試練。不動産屋では、担当者が全てのアパートの家主に、外国人が部屋を借りてもいいかの確認をするところから始まる。その後、家主に礼金、(ほとんど返されることのない)敷金及びその他諸々の支払いをしなければならない。最近引っ越したところだが、支払った合計金額は約80万円だった。(在日英語講師)
- 家具付きの部屋だとたいへん助かるが、退去する際、次に住む人に家具を残すのを禁止しているところが案外多かった。(留学生)

キーワード⑧: 多言語での情報発信・相談対応



【主な生声(=ニーズ)】

- 外国人が皆英語がわかるわけではない。多言語の情報発信が必要。(総領事館)
- 福利厚生、免許の切替等、生活に関する情報が入手しにくい。(国際交流団体)
- 母国へ帰国後の元研修生にFacebookで情報発信をしているが、現地側にとって有益な情報を発信できているかわからない。(国際交流団体)

【主な先進事例】

- (公財)大阪国際交流財団では、大阪府の委託事業で「外国人情報コーナー」を実施。外国人の登録者数の多い順に英語、中国語、ベトナム語等9カ国語に対応。英語以外はトリオフォン(三者通話用電話)を利用。
- (公財)京都市国際交流協会は、外国人向け住宅物件検索サイト「HOUSE Navi」を、日本賃貸住宅管理協会京都府支部と共同で運営している。

【エピソード】

- 母国のテレビで日本を紹介していたが、ほとんどが「日本=東京」のイメージで、「関西」に関する情報はほとんど放送されていない。(総領事館)
- どんな福利厚生があるかわからなかったため、その情報を探せず、出産給付金が受けられなかった。また、保育所入所にも苦労した。(国際交流団体)
- 相談で最も多いのは「暮らし」関連。特に在留資格にも関わる住民税、皆保険制度が理解できず、健康保険料の支払いに関する相談や、多言語化が遅れている運転免許の相談が多い。(国際交流団体)

キーワード⑨: 地域コミュニティ(情報発信)



【主な生声(=ニーズ)】

- HPに情報を掲載していても、必要としている人に届いていない。(国際交流団体)
- 関西は交流イベントが関東に比べ少ない。地域で疎外感を感じている。(外国人会社員)
- 在住外国人の積極的活用(通訳等)が必要。来日する外国人の言葉だけではなく、気持ちも理解できるため。(国際交流団体)

【主な先進事例】

- タイの大使館や領事館では、一般的な生活面のポイントについての冊子を配布。
- (公財)京都市国際交流協会や(公財)神戸国際コミュニティセンターでは、初めて地域で生活する外国人向けに、情報提供や行政・医療相談の他、日本語講座の提供、子育て支援、イベント開催を実施。
- (公財)京都市国際交流協会では、「留学生交流ファミリー制度」という里親制度の場を設置。地域との繋がりを深めている。
- 「OSAKA留学生ネット」や「京都留学生情報サイト」では、留学生と関西地域の人々との交流を促進したり、生活に役立つ情報を一元的にとりまとめて提供。登録多数。
- ひょうごラテンコミュニティでは、スペイン語情報紙“Latin-a”を発行。

【エピソード】

- 地域コミュニティとの繋がりがないので、町内会のお祭りに声がかからないなど、寂しい思いをした。(留学生)
- ゴミの出し方がわからず、引っ越しのたびに困っている。(国際交流団体)
- 母国語で情報共有ができず、どんな支援体制があるかもわからないため、相談先もなく異国で暮らす不安感が強い。(国際交流団体)
- 日本の保育所事情がわからず、満杯で入所先が見つからなかった。(国際交流団体)
- 外国人は長く住んでいても、いつまでもお客さん扱いされる。(国際交流団体)

キーワード⑩: インターナショナルスクール



【主な生声(=ニーズ)】

- インターナショナルスクールは高価。(国際交流団体)
- 国際バカロレア資格が取れるインターナショナルスクールが少ない。(外国人社員)

【主な先進事例】

- 大阪府・市は、国際戦略特区で、国際バカロレア認定を受ける公設民営学校の設置を国に提案。
- 文部科学省による「公立学校における帰国・外国人児童生徒に対するきめ細やかな支援事業」(補助事業)を平成27年度実施する関西の教育委員会は以下のとおり。
滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、大津市、豊中市、姫路市

【エピソード】

- 資格の取れるインターナショナルスクールというと神戸になるため、家族のいるビジネスパーソンは、必然的に神戸に住む人が多い。(総領事館)
- 長年日本で暮らしていたが、子育ての際に、インターナショナルスクールの費用がネックとなり、帰国を希望した外国人がいた。(国際交流団体)
- 費用の面から多くの子どもが公立学校に編入しているが、通訳や日本語補講等、サポートの手厚さが自治体により異なる。年度末で予算がないことから、2~3月にサポートを受けられなかったことがある。(国際交流団体)

キーワード⑪: 会社での使用言語・慣習



【主な生声(=ニーズ)】

- 日本語ができないと、日本企業に就職できない。(留学生)
- 社内文書が日本語のみのため、業務遂行に支障がある。(外国人社員)
- 外国人の雇用に歴史がないので、キャリアパスが描けない。(外国人社員)
- 旧正月に帰省できるような外国人向けの制度を希望。(外国人社員)

【主な先進事例】

- 外国人の採用に熱心なA社(本社:大阪市)では、日常的な業務は英語やPCで対応。

【エピソード】

- 国立大の大学院では英語で勉学ができ、2年間心地良く過ごせたが、いざ日本企業に就職しようとする、日本語が必要とわかり、やむなく帰国した。(元留学生)
- 入社には日本語が話せることが条件になっており、社内文書も日本語なので、自分だけ知らないことがあるのではないかと不安になることが多い。(外国人社員)
- 国内営業で採用された後、キャリアパスがないので将来が不安。海外にもチャレンジしたいが、希望が叶うのかわからない。(外国人社員)
- 旧正月に帰省を希望したが通らなかった。(外国人社員)

キーワード⑫: 就職(情報発信・サポート)



【主な生声(=ニーズ)】

- 留学ビザから切り替えられるのは、技術(CAD、プログラミング等)と人文知識・国際業務(翻訳・通訳者、語学学校講師、海外取引業務等)の2種類。そのため、就職先が広がらない。(留学生対象日本語・専門学校)
- 中小企業は入管手続きに明るくないので、必要書類の作成は学校が手伝っているのが現状。(留学生対象日本語・専門学校)
- 日本の就職システムが理解できない(活動開始時期、新卒重視、エントリーシート、複数回ある面接)。(留学生)
- 求人票に外国人専用のもがない。キャリアパスがなく、外国人に何を求めているか分からない。(外国人社員)
- 同じ国籍の留学生から情報を得る機会が多いが、学生数の少ない国籍の留学生は就職が非常に困難。(国際研究機関)

【主な先進事例】

- 東京商工会議所、大阪商工会議等では、留学生の就職支援サイト「就職じゃぱん」を運営。
- (公財)京都市国際交流協会では、「京都留学生情報サイト」を運営。
- (公財)京都市国際交流協会と(株)ジェイケイ・ブランディングは、外国人留学生・日本人バイリンガルのための就職・キャリア支援事業「Global Kyoto Project」を実施。
- 大阪外国人雇用サービスセンターでは、「留学生ビジネス・インターンシップ」を実施。管内の71の大学と連携し、求人情報等を留学生に発信。
- 株世代継承活学社(本社:京都市)では、主に中国人留学生を対象に、就職先探しをサポート。

【エピソード】

- 母国と同じ感覚で就職活動をスタートしたが、すでに採用が終わっていた。(留学生)
- 相談する相手も、手本となる外国人の先輩もいない。(外国人社員)
- 大学のキャリアセンター(就職支援)と留学支援の担当課との関係が良くないため、留学生の就職支援に積極的に取り組んでいない。(外国人を雇用している企業)

キーワード⑬: アルバイト

【主な生声(=ニーズ)】

- 留学生のアルバイト週28時間制限の撤廃を希望。(国際交流団体)
- 首都圏に比べ単価が安い上に、来日直後は単純作業しかできないため、さらに低賃金となる。(留学生対象日本語・専門学校)
- アルバイトと学業の両立が難しい。(国際交流団体)
- 留学生向けのアルバイト情報が不足。(国際交流団体)
- 外国人としての壁があり、アルバイト先に溶け込めなかった。(外国人社員)

【主な先進事例】

- (学法)エール学園では、来日間もない留学生やアルバイトの経験がない留学生は、アルバイト経験のある留学生と必ずセットでアルバイト先に行かせるようにしている。

【エピソード】

- 来日直後の留学生は日本語がうまく話せず、アルバイト先では人に接しない単純作業が多いため賃金が安く、生活するのに精一杯。(留学生)
- 勤務時間数の制限がある旨を伝えると、アルバイトに採用されなかった。(留学生)
- 半年分の学費だけを本国から持ってきて、その後はアルバイト等で生活費や学費を捻出している留学生もあり、学校とバイトの往復のみの生活となっている。(国際交流団体)

キーワード⑭:リピーターのための情報発信



【主な生声(=ニーズ)】

- 今ある観光案内所は、初めて日本を訪れた旅行者向けになっているため、深い情報を得ることができない。国、地域、訪日回数、団体旅行か個人旅行かなどによりニーズが異なる。(旅行業者)
- 英語圏以外の旅行者に向けた情報が少ない。(旅行業者)
- 地方では、外国人向けの案内所が少ない。(自治体)
- 免税店情報が少ない。手続きに時間もかかる。(留学生)
- 産業観光に興味があるが、情報をどこで得ればよいのか分からない。(留学生)
- 母国で情報を得ることが困難。(外国人社員)

【主な先進事例】

- 京都市の外国人旅行者向け京都観光ウェブサイト「Kyoto Official Travel Guide」は、13カ国語で情報を発信。
- JTB西日本は、外国人専用の観光案内所「関西ツーリストインフォメーションセンター」を、心齋橋、関空、京都(2015年6月開設予定)で運営し、観光・交通情報の提供、旅行の手配等のサービスをワンストップで提供。(英、中、韓の3カ国語対応)
- (株)ジャパンホリデーラベルは、個人の訪日外国人旅行者を対象とした行動支援アプリ「ichiban point」によるサービスを開始。(英、中、韓、タイの4カ国語対応)
- 近畿経済産業局では、「関西の見学可能な産業施設ガイド」(ウェブサイト)にて、約500の産業関連施設を紹介。

【エピソード】

- 個人で関西を旅行した際、最寄り駅からの案内がなかったため、目的地にたどり着けなかった。次の観光地へ行く時にも距離感がつかめず、何時間かかるか不安になった。(駐日海外経済機関)
- 個人旅行者、リピーターからは、日本の伝統や文化を感じられる日本ならではの体験型商品の要望が多いが、施設側の言語対応等の問題で受入れを断られるケースが多々あるため、個人旅行者に対応可能な施設に係る情報発信が必要。(旅行業者)

キーワード⑮:案内表示・公共交通



【主な生声(=ニーズ)】

- 大阪の地下街が分かりづらい。ゾーニング・色分けが必要。(国内企業)
- 案内表示を含む駅全体でのデザインに統一感をもたせるべき。(国内企業)
- 駅名が長い。似たような名前が多く混乱する。(駐日海外経済機関)
- 券売機で切符を買うのが難しい。(留学生)
- 車内アナウンスの多言語化が必要。(旅行者)

【主な先進事例】

- 大阪市交通局の「市営交通案内センター」では、電話・FAXで地下鉄・ニュートラム・市バスの時刻表、乗継方法、所要時間や運行情報などを案内。(英語、中国語、韓国語の3カ国語対応)
- (株)PIJINによるスマホ等タブレット端末をQRコードにかざせば、多言語で情報が得られるQR Translatorサービスを、関空、USJ、あべのハルカス等にて実施。奈良市も市内500箇所導入決定。

【エピソード】

- 地下鉄で関空までの安価なチケットを買おうとしたが、買い方が分からず困っていたところ、親切な日本人が駅員との間を往復して説明してくれて、ようやく飛行機に間に合った。(外国人旅行者)
- 案内表示が突然なくなったり、出てきたりして混乱した。(在日英語講師)
- 鉄道フリーパスを購入したが、行き方が分からず、結局簡単に行ける有名な観光地に行った。(外国人旅行者)
- 海外は一般的にタッチパネル1か所を見れば切符を購入できる。日本では上の路線図を見て現所在地、目的地を確認し、券売機を見てから購入するため、非常に分かりづらい。(旅行者)
- 事故で電車が止まった時のアナウンスが日本語のみでどうしたらいいか分からなかった。(在日英語講師)

キーワード⑩: ナイト・エンターテイメント



【主な生声(=ニーズ)】

- ほとんどの海外の有名都市にはナイトエンターテイメントがあるのに、日本に無いことが不思議。(劇場統括プロデューサー)
- ナイトエンターテイメント情報が不足していると感じられる。居酒屋等遊びに行けるところのニーズはたくさん存在している。(旅行業者)
- 外国人にとって1日の折り返しは夕食。それにもかかわらず、深夜まで開いているお店が少ない。(旅行業者)

【主な先進事例】

- 京都では、ナンバーバルパフォーマンスGEARをロングラン公演している。観客の1/3が外国人。
- (株)ASOBIBAは、インドアサバイバルゲームフィールドASOBIBAを全国展開しており、大阪(日本橋)でもフィールドを開設し、外国人にも好評。
- (公益)京都伝統伎芸振興財団(おおきに財団)は、ギオンコーナーという、舞妓の京舞を始めとする能楽や狂言等7つの伝統芸能を約1時間で鑑賞できる施設を運営。

【エピソード】

- 旅館で夕食を食べ、温泉入浴後に、近くの街で買い物しようと外出したが、街はすでに真っ暗だった。(外国人旅行者)
- 一晩中買い物できるのは、コンビニくらいしかない。(旅行業者)
- ナンバーバルパフォーマンスGEARは、京都でしか上演していないこともあり、海外旅行者が足を運んでいる。特に、雨の日は、観光名所に行かなかった海外からの客が多い。(劇場統括プロデューサー)

キーワード⑰:ホテルの充実(数・サービス)



【主な生声(=ニーズ)】

- ホテルの数が少ない(特に奈良市)。(旅行業者)
- LCCの深夜便に対応しているホテルが少ない。(旅行業者)
- 深夜まであいているスーパーや薬局がホテルの近くにほしい。(旅行業者)
- フランスやドイツではバカンスは1か月。長期滞在できる安価なホテルが必要。特に旅館では家族全員となると相当な金額になる。(国内行政機関)

【主な先進事例】

- 京都市では、建築基準法の例外規定で外資系ホテル建設を認めたため、進出の機会が増加。
- LCCを利用する海外のバジェットトラベラーのニーズに合わせ、簡易宿から旅行者向けホテルに業態転換(大阪市西成区)。
- 関西国際空港では、エアロプラザ内に、仮設仮眠、休憩スペースを設置予定。(平成27年7月)

【エピソード】

- 訪日外国人は4~5泊程度の連泊が多いが、週末は、ホテル側が日本の宿泊客を優先しているため、ピーク時には約8割の外国旅行者からの予約を断っている。(旅行業者)